

平成28年度

教育委員会点検評価報告書
(平成27年度対象)

平成28年9月

大鰐町教育委員会

目 次

I	点検評価の概要	1
II	点検・評価の対象及び方法	1
III	評価委員	1
IV	評価委員会	1
V	平成27年度 大鰐町の教育	1
	1 大鰐町が目指す町の姿	
	2 大鰐町教育委員会の基本方針	
	3 平成27年度 大鰐町教育方針体系図	
VI	教育委員会の活動状況	3
	1-1 教育委員の構成（平成27年4月1日現在）	
	1-2 教育委員の構成（平成28年3月31日現在）	
	2 教育委員会会議の開催状況	
	3 教育委員の行事等参加状況	
VII	主要施策の点検・評価	7
	1 学校教育の推進	
	2 社会教育の推進	
	3 芸術文化の振興と文化財の保護活用	
	4 生涯スポーツの振興	
VIII	平成27年度 主な事業と経費及び成果等	18
IX	評価委員による点検・評価	22

I 点検・評価の概要

趣 旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律で、教育委員会は、毎年その権限に属する教育行政事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに公表することが規定されております。

この法律の規定により、大鰐町教育委員会では、今後の効果的な教育行政の推進及び町民への説明責任を果たしていくために教育に関する点検及び評価を実施し、報告書にまとめました。

II 点検・評価の対象及び方法

点検・評価の対象は、前年度に管理及び執行した事務のうち大鰐町主要施策に基づく重点の事務事業を教育委員会が自己評価しました。

- A…達成している
- B…ほぼ達成している
- C…やや達成していない
- D…達成していない

III 評価委員

- ・藤 田 昇 治（弘前大学生涯学習教育研究センター
兼大学院地域社会研究科准教授）
- ・鎮 目 志保子（元小学校教諭）
- ・山 口 裕 子（元小学校校長）

IV 評価委員会

- ① 平成28年 7月 4日（月）
- ② 平成28年 7月19日（火）

V 平成27年度 大鰐町の教育

平成27年度 大鰐町の教育

1 大鰐町が目指す町の姿

湯の郷・雪の郷・りんごの郷 おおわに

- ① 美しく・潤いのあるまちを創る
- ② にぎわいと住みやすさのあるまちを創る
- ③ 活力と夢を育むまちを創る
- ④ 豊かな心と学びのまちを創る
- ⑤ 健やかで笑顔のあるまちを創る
- ⑥ みんなで築くまちを創る

（第5次大鰐町総合振興計画）

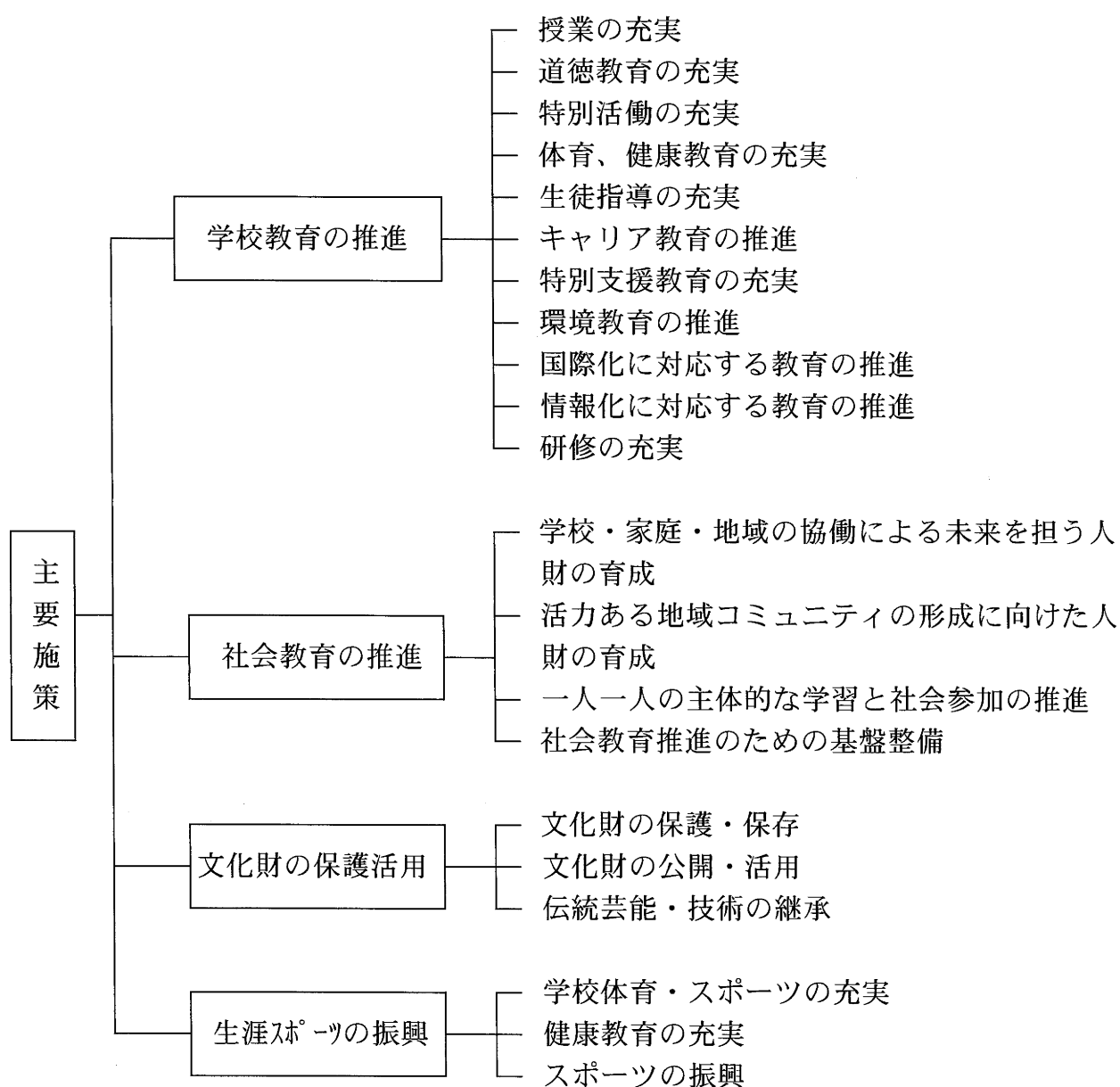
2 大鰐町教育委員会の基本方針

大鰐町教育委員会、その他関係機関・団体との連携を図りながら、町を育てる学力、町に生かせる学力を育てていきます。

大鰐町の未来を創る人財の育成

一人一人が学び、郷土を愛する、心豊かで
たくましい人づくり

3 平成27年度大鰐町教育方針体系図



VI 教育委員会の活動状況

1-1 教育委員の構成（平成27年4月1日現在）

役職名	氏名	委員としての任期	委員長及び教育長としての任期	備考
委員長	成田 信一郎	H23.12.18 ～ H27.12.17	H26.12.25 ～ H27.12.24	H26.12.25 委員長就任
委員長 職務代理者	小西 祐	H24.10.29 ～ H28.10.28		H24.12.25 委員長職務代理者就任
委員	貴田 範子	H23.7.13 ～ H27.7.12		H23.7.13 就任
委員	竹内 初男	H25.10.29 ～ H29.12.24		H24.9.19 就任
教育長	木田 専一	H24.10.29 ～ H28.10.28	H24.10.29 ～ H28.10.28	H24.10.29 教育長就任

1-2 教育委員の構成（平成28年3月31日現在）

役職名	氏名	委員としての任期	委員長及び教育長としての任期	備考
委員長	成田 信一郎	H27.12.18 ～ H31.12.17	H27.12.25 ～ H28.12.24	H27.12.25 委員長就任
委員長 職務代理者	小西 祐	H24.10.29 ～ H28.10.28		H24.12.25 委員長職務代理者就任
委員	貴田 範子	H27.7.13 ～ H30.7.12		H23.7.13 就任
委員	竹内 初男	H25.12.25 ～ H29.12.24		H24.9.19 就任
教育長	木田 専一	H24.10.29 ～ H28.10.28	H24.10.29 ～ H28.10.28	H24.10.29 教育長就任

2 教育委員会会議の開催状況

教育委員会会議は、原則として毎月1回「教育委員会定例会議」を開催している。また、必要に応じて臨時会を開催し、平成27年度の定例会は12回、臨時会は1回の合計13回開催した。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第13条及び「大鰐町教育委員会会議規則」の規定に基づき、平成27年度は以下の案件について審議及び報告事項による確認を行なった。なお、定例会では教育長に関わる業務内容を毎回報告し、教育委員間で認識の共有化に努めている。

開催日	件名
第1回 定例会 4月6日	報告事項1 業務報告 報告事項2 平成27年度大鰐町教育委員会事務局職員名簿について
第2回 定例会 5月11日	報告事項1 業務報告
第3回 定例会 6月3日	報告事項1 業務報告 議案第2号 大鰐町就学援助事業実施要綱の一部改正について 議案第3号 大鰐町私立幼稚園奨励費補助金交付要綱の一部改正について 議案第4号 特別支援教育支援員設置要綱について 議案第5号 英語指導助手の任期期間について
第4回 定例会 7月7日	報告事項1 業務報告
第5回 定例会 8月5日	報告事項1 業務報告 議案第2号 平成26年度大鰐町教育委員会の事務に関する点検及び評価について 議案第6号 大鰐町社会教育施設設置条例の一部を改正する条例案
第6回 定例会 9月1日	報告事項1 業務報告

開催日	件名
第7回 定例会 10月5日	報告事項1 業務報告 議案第7号 英語指導助手勤務成績評定要領の一部を改正する訓令案 議案第8号 大鰐町立小学校の通学区域に関する規則について 議案第9号 大鰐町教育委員会公印規定について
第8回 定例会 11月9日	報告事項1 業務報告
第9回 定例会 12月7日	報告事項1 業務報告
第1回 臨時会 12月18日	議案第10号 大鰐町教育委員会委員長選任について
第10回 定例会 1月8日	報告事項1 業務報告 議案第1号 地方教育行政の組織及び運営に関する法律改正に伴う関係規則の整理に関する規則案
第11回 定例会 2月10日	報告事項1 業務報告 報告事項2 平成27年度青森県学習状況調査結果について 報告事項3 平成28年度予算概要について
第12回 定例会 3月7日	報告事項1 業務報告 議案第2号 平成27年度学校教育活動表彰被表彰者の選考について 議案第3号 平成27年度大鰐町文化活動表彰被表彰者の選考について 議案第4号 平成27年度大鰐町スポーツ賞・スポーツ奨励賞表彰被表彰者の選考について

3 教育委員の行事等参加状況

教育委員会は、教育委員会会議のほか、学校行事及び研修会等に参加している。

期 日	行事・研修会等	場 所	参加委員
平成27年 4月 7日	大鰐町立小学校及び中学校入学式	各学校	全委員
4月 7日	南地方市町村教育委員会連絡協議会総会	黒石市	全委員
5月11日	大鰐町教職員全員研修会	大鰐中学校	全委員
5月25日	青森県市町村教育委員会委員総会・研修会	青森市	全委員
5月29日	大鰐小学校、大鰐中学校運動会	各学校	全委員
6月29日	前期学校訪問（大鰐小、大鰐中）	各学校	全委員
7月10日	東北地区市町村教育委員研究協議会	青森市	全委員
7月18日	社会を明るくする運動	大鰐中学校	全委員
8月15日	大鰐町成人式	中央公民館	全委員
9月25日	南地方市町村教育委員会連絡協議会秋季研修会	大鰐町	全委員
11月24日	後期学校訪問（大鰐小、大鰐中）	各学校	全委員
2月17日	大鰐小学校スキー大会	大鰐スキー場	全委員
3月11日	大鰐中学校卒業式	大鰐中学校	全委員
3月18日	大鰐小学校卒業式	大鰐小学校	全委員
3月22日	大鰐町教育委員会顕彰式	中央公民館	全委員

VII 主要施策の点検・評価

1 学校教育の推進

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
(1) 授業の充実	一人一人の子どもが、各教科及び総合的な学習の時間等に主体的に取り組み、確かな学力を身に付けることができるよう、言語活動の充実を図りながら、一人一人の能力・適性に応じた指導と学習習慣の育成に努める。	<p>【小学校】</p> <p>学習状況調査や学力テストの結果を分析や実態把握をし、基本的内容の確実な定着を図るよう指導内容の重点化を図っている。また、特色ある取り組みとして、国語辞典の活用を全校で取り組むことにより自ら学ぶ姿勢が育ちつつある。家庭学習については、家庭学習のパンフレットを配布するとともに一人勉強ノート展を開催し、保護者にも多くの児童の一人勉強ノートを見てもらい、参考にさせている。自学自習の態度が身につくつつある。</p>	B
		<p>【中学校】</p> <p>中学校の重点課題であるところらえ、各種学力検査や調査の結果を分析し、授業における生徒指導を図りながら、学び合い伝え合うことを通して学習意欲を高め、よりよく問題を解決する学習方法を身に付けさせる授業づくりに努めた。</p>	B
(2) 道徳教育の充実	一人一人の子どもが、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を具体的な生活の中に生かし得るよう、道徳性の育成に努める。	<p>【小学校】</p> <p>全体計画に示された各学年の重点目標や各教科等々の関連について全職員が共通理解を深め、指導体制を充実させることができている。今後は、より実践する力を育てるために地域との連携や体験活動を増やすことが求められる。</p>	B
		<p>【中学校】</p> <p>特別の教科「道徳」への移行を踏まえ、教科をはじめ全ての教育活動と関連付けた道徳教育全体構造図を作成し、「考え、議論する」道徳に向けて授業改善に努めた。また、郷土愛を育む地域のボランティア活動への参加も奨励している。</p>	A

<p>(3) 特別活動の充実</p>	<p>一人一人の子どもが、望ましい集団や豊かな体験の中で互いの個性を認め合い、協力してよりよい生活や人間関係を築いていくことができるよう、自主的、実践的な態度の育成に努める。</p>	<p>【小学校】 児童の発意や発想を大切に、創意工夫のある活動が行われるようにするとともに、児童に任せる範囲を明確にしながらかし合える場を保証したことにより、自己有用感が育ちつつある。今後更に、成就感や満足感を育てるために、教職員が一致した指導助言をしていく必要がある。</p>	<p>A</p>
<p>(4) 体育、健康教育の充実</p>	<p>一人一人の子どもが、全生涯にわたり自ら進んで運動に親しみ、健康・安全で活力のある生活を送ることができるよう、家庭や地域社会との連携を図りながら心と体を一体として捉え、健康でたくましい体を育む教育の推進に努める。</p>	<p>【小学校】 児童が意欲的に体力づくりに取組めるように、マラソン・縄跳びのがんばり表を作成し取り組ませている。基準に達した際は賞状を授与しやる気を持たせている。喫煙防止、命の授業、歯磨き指導において、外部講師を要請し、より専門的な指導を受け健康教育の充実を図っている。食に関する指導と他の教育活動との関連に配慮し、体験的な学習を通してその後の学習や生活に生かすことができるよう、発達段階に応じた指導を工夫する必要がある。</p>	<p>A</p>
		<p>【中学校】 進んで運動に参加し健康な学校生活を営めるよう、多様な運動を系統的に体験させ、体を動かすことの習慣化を図るよう努めた。また、食に関する指導の全体計画と年間計画を策定し、食育の指導に取りかかった。</p>	<p>A</p>

(5) 生徒指導の充実	一人一人の子どもが、豊かな生活を送ることができるよう、家庭や地域社会及び関係機関等との連携を図りながら、心の結びつきを基調とした指導を行うとともに、問題行動等の未然防止、早期発見・早期対応に努める。	【小学校】 問題行動の未然防止を最優先の課題として、年6回の児童理解会議を開催し早期発見・早期対応にあたった結果、不登校児童はいなかった。「QU」やアンケート調査等の資料を基に、児童生徒の悩みに焦点を当てた相談ができるよう工夫をしている。今後も職員全員がアンテナを高くして協働指導体制の確立に努めていく必要がある。	A
		【中学校】 心理テスト（ハイパーQU）の結果と生徒指導に関する研修内容を活用し、生徒理解に基づいた教育相談を行い、いじめや問題行動の未然防止及び早期発見早期解決に努めた。また、充実した集団活動を体験させることで、集団の一員であるという意識を高めることに努めた。	B
(6) キャリア教育の推進	一人一人の子どもが、自らの生き方を考え、社会的・職業的自立ができるよう、必要な基盤となる資質、能力、態度の育成に努める。	【小学校】 これまでの教育活動の中で、キャリア教育にかかわるものを見つめ直す視点が、職員間で定着しつつある。今後も更に校内研修等でキャリア教育に関する研修を進めるとともに、校内研修にも積極的に参加し、具体的方策、評価改善について学習していく必要がある。また、低学年から所属する集団やみんなのために働く経験を重視し、働くことの大切さや意義を更に考えさせていくことが課題となる。	B
		【中学校】 学級活動や総合的な学習の時間での進路学習と、職場体験活動やふるさと体験学習を関連させることで、キャリアプランニング能力を高め、進路実現に向けて努力する態度の育成に努めた。また、経営者を招いての進路講話を実現したほか、高校進学については先輩を招いて直接話を聞く機会を設けた。	A

<p>(7) 特別支援教育の充実</p>	<p>発達障がいを含む障がいのある子どもが、障がいによる学習上又は生活上の困難を主体的に改善、克服するとともに、その持てる力を最大限に発揮して自立や社会参加ができるよう、一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援に努める。</p>	<p>【小学校】 特別支援学級が4クラスあることにより、活動の幅が広がった。様々な教育活動を通じて人間関係を深めることができた。全教職員の共通理解のもと、学校全体で支援する体制づくりができた。特に特別支援教育を進める上で、確認されたことは、「これもできるのか」という視点である。このことにより特別支援学級の子どもたちが毎日楽しい学校生活を送ることができたことは大きな成果である。</p>	<p>A</p>
		<p>【中学校】 特別支援学級に在籍する生徒だけではなく、通常の学級にいる発達障害の傾向がある生徒についても、小学校との情報交換をよく行い、保護者とのよりよい連携を図りながら、適切な指導や支援に努めた。また、小学校の特別支援学級との合同学習も行っている。</p>	<p>B</p>
<p>(8) 環境教育の推進</p>	<p>一人一人の子どもが、環境と人間とのかかわりについて関心と理解を深め、環境に対する豊かな感受性を養うことができるよう、環境保全に主体的に取り組む態度の育成に努める。</p>	<p>【小学校】 雑誌回収やPTAの資源回収を行うことで、環境問題に関心を持つ児童は増えている。今後推進にあたっては、全体計画及び年間指導計画を基に、各教科・領域相互の関連や連携を図りなら、地域や児童の実態に応じた効果的な指導に努める必要がある。</p>	<p>B</p>
		<p>【中学校】 郷土を愛する気持ちを育てるよう、入学記念のつつじの記念植樹や全校での環境美化運動、地域での体験学習を中心として、中学生の実態に合った効果的な環境教育の取り組みに努めた。</p>	<p>B</p>

(9) 国際化に対応する教育の推進	一人一人の子どもが、我が国や諸外国の文化と伝統について関心と理解を深めるとともに、国際社会に貢献できるよう、国際理解教育の推進に努める。	【小学校】 町のALTや国際交流員の訪問を活用して、外国の文化について学ぶ機会を設定している。今後はより国際理解教育を充実させるために、児童の実態や発達段階、学習内容のつながりを踏まえ、指導計画、指導過程、内容及び教材・教具を工夫する必要がある。	A
		【中学校】 中学校にはほぼ常勤のALTがおり、英語の時間はもちろん休み時間や総合文化部の活動など日常的に生徒と関わりを持っている。この環境を生かし、ふるさと体験学習など郷土学習とも関連させることで、国際理解教育に努めた。	B
(10) 情報化に対応する教育の推進	一人一人の子どもが、情報活用能力を身に付けることができるよう、情報モラルにかかわる指導の充実を図り、系統的・体系的な情報教育の推進に努める。	【小学校】 調べ学習でインターネットを活用した授業、電子黒板、デジタル教科書等を活用した授業が増えている。情報モラルに関する指導については、家庭や地域社会と連携した取り組み、特に家庭へより一層啓発していく必要がある。	A
		【中学校】 技術科の授業でパソコンを活用するICT教育に取り組んでいる。ただし、技術科の専科教員がいないので十分とは言えない。スマホ等利用による生徒指導上の問題も懸念されるので、情報リテラシーや情報モラルに関する指導の必要性を感じているが、ICT教育機器の整備と合わせて今後の課題である。全教職員に業務用パソコンが割り当たれば、情報教育の一助になると思う。	B

<p>(11) 研修の充実</p>	<p>教職の専門性を高め、教育活動の充実を図るため、計画的・積極的な研修の推進に努める。</p>	<p>【小学校】 研修の充実を図るため、まずは全員が授業を公開することにした。そのことにより、校内研修がより身近なものになり、研修が深まった。今後は、校内研修の計画的、継続的な取り組みを進めながら、児童の日常の学習状況を捉えた授業改善を図っていく必要がある。</p>	<p>A</p>
		<p>-----</p> <p>【中学校】 年1回は校外での研修を積極的に受けるように奨励している。校内研究では、研究主題に系統性を意識したサブテーマを設けたことにより、教師の指導と生徒の活動を明確化した。研究主題に沿った公開授業を、全教員が指導案を作成して行うとともに、集中授業では研究主題について協議し、確認した成果は研究紀要で報告した。</p>	<p>A</p>

社会教育の推進

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
(1) 学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成	<p>青少年の体験的活動の充実に努める。</p>	<p>放課後子ども教室、ふるさと子ども教室等を通して、学校で体験することが難しい陶芸教室やねぶた笛教室を実施した。 小学校の統廃合後の参加児童の送迎及び新規の体験活動を計画にあっては、子どもたちのアレルギー等の安全対策の強化が必要であった。</p>	B
	<p>地域が支えるキャリア教育の充実に努める。</p>	<p>青少年社会参加活動事業により、150千円の補助を行った。 小学生に東京都にあるアンテナショップで地場産品販売体験をさせ、流通、物流に対する知識を習得させることができた。 小学校統合により、参加者の増加が予想されることから、補助金の増額等の検討が必要と思われる。</p>	A
	<p>子どもの読書活動の充実に努める。</p>	<p>町読書推進計画に登載された図書管理システムの導入により、小・中学校から公民館の蔵書検索が可能となった。また、地域資料の検索が可能になったため、学校教育の一助ともなると期待される。 導入1年目であることから、システムの設定を調整中であるため、早期に調整を終え、インターネットを使った蔵書検索を可能としたい。</p>	A
	<p>地域全体で子どもを育む活動の充実に努める。</p>	<p>小・中学校の出前俳句教室実施に際し、地域の講師を活用した。また、放課後子ども教室においても、コーディネーター・サポーターを町内の人財を活用した。 俳句教室の実施に際し、小学校の統合により1学級当たりの児童数が増加したことから、俳句に精通した補助員の確保や後継者の育成が必要と思われる。</p>	B
	<p>家庭教育支援の充実に努める。</p>	<p>放課後子ども教室では主に宿題や学習の支援を通して家庭学習の仕方や習慣化に努めた。 支援してくれる人財が不足のため、サポーター1人当たりにかかる負担が増加傾向にあるので人財の確保に努めたい。</p>	B

(2) 活力ある地域コミュニティの形成に向けた人財の育成	地域活動の実践者の育成に努める。	民間交番である「わにっこ安心ステーション」の管理・運営を地域住民に依頼し、青少年の健全育成及び子どもたちの安全確保に努めた。 共働き世帯の増加により、若い世代の参加が減少しているため、各団体との連携による人財の確保と実践が必要である。	A
	地域活動の指導者、コーディネーターの養成に努める。	若い世代、特に小中学校保護者に対して研修の案内を個別に行ったが、研修が平日に行われることが多く、参加者を確保できなかった。また、土日の研修についても同じように参加者の確保ができなかったため、開催日も含め研修会のあり方についての検討が必要である。	D
	地域活動に関わる人財のネットワーク形成の支援に努める。	民間交番及び成人大学では各地域の人財により運営した。 地域活動の活性化のために新たな団体や人財の発掘・育成が必要である。	A
(3) 一人一人の主体的な学習と社会参加の推進	関係機関との連携による多様な学習活動の支援に努める。	成人大学において各種体験型事業を実施する際は、可能な限り町内の団体に指導を依頼した。 体験型事業の運営についても、参加者の高齢化が進み、けがなどの事故が十分考えられることから、関係機関等とのより一層の連携が必要と思われる。	A
	学習成果を生かした社会参加活動の支援に努める。	成人大学や俳句教室で学習した成果を大鰐温泉俳句大会において披露し、成果公表の場とした。 俳句大会の参加者が年々減少していることや、成人大学や俳句教室の開催前に俳句大会が開催されることから、成人大学や俳句教室において投句できるように進めていきたい。	C

(4) 社会教育推進のための基盤整備	社会教育推進体制の充実に努める。	<p>町の社会教育行政の方針と重点に基づいた体制の充実や事業の実施見直しを行っている。</p> <p>社会教育委員からの評価及び参加者アンケートにより事業の見直しを行っているが、要望に沿った事業実施までには時間を要するために改善が必要である。</p>	C
	社会教育施設の機能の充実と活用の促進に努める。	<p>図書室の図書管理システム導入により、社会教育施設が行う住民サービスの強化を図ることができた。</p> <p>耐震の補強工事や外壁の修繕など、老朽化が見られていることから予算の確保と改修の促進に努めたい。</p>	B
	社会教育関係職員の養成と資質の向上に努める。	<p>社会教育主事資格所持者2名を各2回の研修会に参加させた。</p> <p>本町における社会教育主事資格所持者が今後、定年退職や管理職への登用が想定されることから、計画的な資格所持者の採用、もしくは資格所得のための受講も視野に入れていきたい。</p>	B
	社会教育関係団体等の活動の支援に努める。	<p>閉校した校舎を活用したいとの申し出のあった団体に対して、校舎の貸出と使用にあたっての各支援を行った。</p> <p>平成28年度より旧校舎の管理が首長部局に移管されたことから、利用について管理課と協議し使用規定等の作成が急務である。</p>	A

3 文化財の保護活用

	目的等	成果・課題等	評価
(1) 文化財の保護・保存	文化財を次代に伝えるため、適切に管理し、保護・保存に努める。	文化財新規候補物件（居土地区の「イチョウ」）に対し、保護・保存に係る助言・支援を行った。 青森県樹木医会の協力により、対象樹木の保存作業を実施し、今後本格的な申請が行われる予定となっている。	A
(2) 文化財の公開・活用	文化財に興味・関心を持ち、親しめるよう、公開・活用と情報発信に努める。	各種団体に発表・披露の場の紹介を行い参加を促している。 団体の構成人数が少ないことから、後継者の確保・育成に向けた支援が必要である。	B
(3) 伝統芸能・技術の継承	保存・伝承されてきた伝統芸能や技術の継承に努める。	技術継承のために必要な備品整備の支援活動を行った。 各種支援により、小学生・中学生の後継者を確保することができた。	A

4 生涯スポーツの振興

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
(1) 学校体育・スポーツの充実	健康保持増進と体力の向上を図ることができるよう、学校体育・スポーツの充実に努める。	地域の特色であるスポーツとして、冬期間のスキー（アルペン・クロスカントリー）について、親しみ・楽しめるよう、学校体育での指導及び小中学生に無料リフト券を配布することにより、体育・健康教育の振興を図ることができた。	A
(2) 健康教育の充実	学校保健、学校における食育及び学校安全を総合的に推進し、健康教育に努める。	町学校給食センター栄養士及び学校担当教諭が連携しながら、地元の食材を積極的に取り入れた地産地消の食育教育を行うとともに、食物アレルギーへの対応についても取り組むことができた。 食材及びメニューを工夫しながら地元食材をより一層活用するとともに、安全安心な学校給食を提供したい。	B
(3) スポーツの振興	スポーツに親しむ環境づくりと競技力を向上させる環境づくりを推進し、スポーツの振興に努める。	スキー競技においては全国大会を3年連続で開催することにより、競技における環境はもろんであるが、生涯スポーツとしても楽しめる環境についても充実を図ることができた。グラウンドゴルフやニュースポーツ広場についても常設で楽しめる環境を整備している。 各スポーツにおける指導者の確保が今後の課題である。	B

Ⅷ 平成27年度 主な事業と経費及び成果等

区分 事業名	決算額 (千円)	事業内容	成果等
教育活性化事業	346	<p>地域における教育や文化活動の振興を目的として、その必要経費に対し補助金を交付する。</p> <p>【平成27年度実績】 鱧小マーチング東北大会補助金 346,000円</p>	<p>大鱧小学校マーチングバンド部の東北大会出場に係る経費の一部を補助したことで、文化活動を通して児童一人一人が貴重な体験をし、今後における豊かな人格形成に貢献した。</p>
幼稚園就園事業	62	<p>私立幼稚園に通わせる費用の一部を国と町が補助することで、保護者の経済的負担の軽減と地域の幼稚園教育の充実を目的としている。</p> <p>国補助 1/3、町 2/3</p>	<p>幼稚園に子供を通わせている保護者の経済的負担軽減と地域における幼稚園教育の充実に寄与している。</p> <p>【平成27年度実績】 補助金の交付対象者 1人</p>
生きる力育成事業	1,448	<p>大鱧小 860,000円 大鱧中 588,000円 計 1,448,000円</p>	<p>「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」などの「生きる力」を育むために、小学校においては地域の伝統文化を含む郷土学習や家庭学習の習慣化に取り組み基礎学力の定着に効果を発揮した。また、中学校においては、受験対策の教材を効果的に使い学力向上が図られた。</p>
AET招致事業	4,640	<p>【平成27年度実績】</p> <p>人件費 4,457,767円 需用費 352円 住宅借上 78,809円 負担金 97,180円 その他 6,160円 計 4,640,268円</p>	<p>中学校を中心に AET を派遣することによって、生きた英語を体験することができた。また小学校においては AET と交流することで英語に親しみ、中学校からの英語教科にギャップなく取組めるようになった。</p>

区分 事業名	決算額 (千円)	事業内容	成果等
スクールバス運行事業	18,030	長峰方面 9,363,600 円 唐牛方面 148,200 円 (超過分) 二小方面 925,344 円 部活バス等 982,140 円 計 11,419,284 円	小学校統合により、旧二小・旧長峰小方面から通学する児童の安全を確保することができた。
小学校改修事業	4,235	駐車場外灯設置 163,080 円 火災報知器増設 70,200 円 リフトボール場バックネット 410,400 円 電気設備改修 3,294,000 円 体育館放送設備 297,000 円 計 4,234,680 円	学校施設・設備等の改修工事等を実施することにより、学校施設等の適正な維持管理が図られた。
中学校改修事業	11,272	リフトボール場改修 2,106,000 円 井水ポンプ改修 1,453,680 円 駐車場舗装 1,123,200 円 野球場バックネット 27,000 円 砂場砂入替 199,800 円 C棟屋根改修 5,302,800 円 渡り廊下屋根改修 561,600 円 ガス配管改修 234,360 円 特別支援教室設置 263,520 円 計 11,271,960 円	学校施設・設備等の改修工事等を実施することにより、学校施設等の適正な維持管理が図られた。
小学校扶助費	7,656	◇就学援助費・特別支援 就学奨励費 ・学用品 1,402,800 円 ・給食費 2,261,420 円 ・医療費 20,145 円 ・遠距離通学費 3,972,060 円 計 7,656,425 円	◇就学援助費・特別支援就学奨励費 経済的理由により、就学困難な児童生徒の保護者等に対して教育を受けるうえで必要な学用品や学校給食費の扶助をしたことにより義務教育の円滑な実施がなされた。
中学校扶助費	6,162	◇就学援助費・特別支援 就学奨励費 ・学用品 2,642,556 円 ・給食費 2,284,800 円 ・医療費 0 円 ・遠距離通学費 1,235,060 円 計 6,162,416 円	【扶助対象者】 ・小学生 50 人 ・中学生 47 人 ◇遠距離通学費 遠距離地域から通学する児童生徒の保護者に対し、通学費の全額または一部を扶助したことにより保護者の経済的負担の軽減と義務教育の円滑な実施がなされた。 ・小学生 103 人・中学生 27 人

区分 事業名	決算額 (千円)	事業内容	成果等
生涯学習推進事業	455	生涯学習だより・成人大学・ふるさと子ども教室・成人式等各種事業の実施	社会の変化やライフステージに即した事業及び子どもたちが地域文化に触れる機会を設けた事業を展開し、町民一人一人が主体的に学ぶ学習機会の提供を行った。
俳句の街づくり推進事業	216	大鰐温泉俳句の街づくり実行委員会補助金 216,000円	俳句大会を実施し、名誉町民第1号である増田手古奈氏の功績を称え、偲んだ。県内外からの投句も多く、町観光の一翼を担っている。
図書ネットワーク化事業	16,230	小中学校及び公民館図書室蔵書のデータベース化	小中図書室及び公民館図書室の蔵書情報データベース化により、それぞれの施設からの蔵書検索が可能になった。また、利用者カードによる蔵書貸出状況管理により、遅滞の減少が期待され、町有図書の有効活用が期待される。
図書購入事業	480	公民館図書室用図書購入 図書購入費 479,845円	児童書及び一般書、生活関連雑誌等を購入し、町民の利用に供することができた。
公民館改修事業	779	小会議室腰壁修繕他施設修繕料 778,680円	公民館小会議室腰壁の亀裂や塗装の剥離が目立ち、利用者から改修の要望があったが、この改修により気持ち良く利用できることから、今後一層の施設利用が期待される。
放課後子ども教室推進事業	1,174	放課後子ども対策事業(補助率国1/3、県1/3) 教育支援サポーター(旧安全管理員)、コーディネーター謝金等	中央公民館、旧二小、湯野川原社会福祉館で実施し、平成25年度より中央公民館教室では休館日である月曜日も実施している。放課後における子どもの安全・安心な居場所づくりと有益な余暇活動のための放課後子ども教室を開催することができた。

各体育団体補助金	7,303	小学校部活動 600,000 円 中学校部活動 2,393,705 円 町体育協会 2,090,000 円 県民駅伝大会 485,000 円 各種スキー大会 292,000 円 インターハイスキー会 1,441,874 円 <hr/> 計 7,302,579 円	小中学校の部活に対して補助をすることによって、各種大会への参加や競技力の向上が図られた。また、社会体育においては地域間の交流や関係者の健康意識の高揚が見られた。 平成28年2月に行われた第65回全国高等学校スキー大会においては約1,500名の選手関係者が来町し、盛大成功裏に大会が開催された。
スキー大会用施設整備事業	19,900	滝ノ沢シャツエ改修工事 17,957,160 円 ジャンプ競技用機器 1,942,704 円 <hr/> 計 19,899,864 円	現行のジャンプ競技のルールに合わせ、滝ノ沢シャツエの改修工事を実施し、選手が安全に競技ができるよう整備した。 整備したジャンプ台で全国高等学校スキー大会の競技が実施された。 ※事業はスポーツ振興くじ助成金10,496,000円の交付を受けて実施した。
スキーリフト使用料補助事業	482	延べ人数 小学生 277人 263,150 円 中学生 156人 218,400 円 <hr/> 433人 481,550 円 【参考】H26年度 小学生 365人 中学生 160人 <hr/> 計 570,750 円	町内の小中学生にスキーリフト1日券（5日分）を配布することにより、スキーに親しむ機会を増やすとともに、楽しみながら健やかな体を育むことができた。 また、地域の特色であるスキーを生かし、日常から運動に親しみ健康の推進を図ることができた。
圧雪車購入事業	42,930	ウインチ搭載型ゲレンデ整備車の更新 1台 42,930,000 円	アルペン、クロスカントリー、ジャンプ競技のコース整備に使用する圧雪車1台を更新した。 平成28年2月の全国高等学校スキー大会等では、記録的な雪不足でもコース整備を円滑に行ない、大会を成功裏に終了することができた。 また、今後アルペンコースはもちろん、クロスカントリーコース等の整備も行い、子どもから大人まで楽しめる生涯スポーツの推進に寄与することができる。

2016. 8. 18 藤田 昇治

【教育委員会会議について】

毎月の定例の会議の他に臨時の会議が1回開催され、概ね適切に議論がなされている。大鰐小学校の統合により、生徒・教職員・保護者・地域住民にとって新しい教育環境の下で学校教育が遂行されることになったが、予想される課題にも適切に対応がなされている。

【学校教育の推進について】

一人ひとりの成長を図り、「特別活動の充実」、「体育、健康教育の充実」、「生徒指導の充実」・「研修の充実」などの項目では大きな成果を上げていることは評価できる。今後は、「小学校の統合」という条件下で生じる可能性がある諸問題に迅速にかつ適切に対応するよう心がけるとともに、児童生徒の学習力向上・地域の教育力向上をより積極的に図っていただきたい。

【社会教育の振興推進について】

「子どもの読書活動充実」や「地域活動の実践者育成」、「地域活動に関わる人財のネットワーク形成」、「関係機関との連携による多様な学習活動の支援」等の項目で大きな成果を上げていることは評価できる。また、「地域学校協働」が政策的に推進されている中で、「地域が支えるキャリア教育」では、大きな教育効果を上げていることが評価できる。今後、修学旅行の機会を活用する等により、より多くの児童生徒が「体験」できるようにしていただきたい。

【文化財の保護活用について】

「文化財の保護・保存」や「伝統芸能・技術の継承」という課題では、とりわけ「文化財を次代に伝えるため、適切に管理し、保護・保存に努める」という課題で、大きな成果を上げている。今後、地域で継承されてきた文化財や地域固有の文化的・歴史的「財産」について地域住民の理解を深めるため「文化財の公開・活用」を図り、全町的レベルで住民同士の交流を促進し、さらに地域を活性化させていくことが期待される。

【生涯スポーツの振興について】

学校教育の場面では、「学校体育・スポーツの充実」という課題において大きな成果を上げている。今後、「健康教育の充実」、「スポーツの振興」が積極的に図られるべきであるが、とりわけ「食育」は「健康保持・増進」の柱の一つであることを重視するとともに、スキーの全国大会をボランティアで支えた住民との「協働」の実績も大切にしたい。

